**講演録　： 石黒 久仁子氏（80期）の講演**

第166回例会　講演会

日時：２０１８年２月３日（土）

場所：連合会館　４F　第１会議室

演題：「映像から読み解くジェンダー、欧米社会とジェンダー」　　　　　　　　講師：　石黒久仁子氏（８０期・東京国際大学国際戦略研究所准教授）

＜石黒氏プロフィール＞：丸子町出身、高校時代は硬式テニス班、１９８６年学習院大学文学部仏文科卒業後は国内商社・外資系企業人事部に勤務。その後２００２年から英国シェフィールド大学で学び、２００８年博士号取得。帰国後に東京大学社会科学研究所を皮切りに研究者としてスタート。雇用、マネジメントに関する問題をジェンダーの視角から分析している。

2月3日（土）に連合会館で開かれた第１６６回例会は、石黒久仁子氏（８０期）の講演会と懇親会。寒波到来中の寒い中にも拘わらず、講演会には４３名、懇親会には３５名が参加されました。以下は講演の概要です。

講演は、石黒氏のユーモア溢れる自己紹介から始まった。高校、大学、社会人を通して硬式テニスに熱中していた。父親の影響もあって子供の頃から映画鑑賞が趣味であり、映画を通してその国の歴史・社会状況・文化・人々の暮らし、等が良くわかり、今でも社会学研究の一助になっているという。

次に本題。まず「ジェンダー」とは、「社会的・文化的に形成された性別（男女の違い）」のことで、生物学的な生まれながらの性別とは異なる。ジェンダーとしての女性とは社会における見方（視角）の一つ、ととらえる。

石黒氏は外資系企業勤務や英国留学の経験を背景に、ジェンダーの視角から女性が社会・経済の中で果たす役割について研究しているが、その心底には、女性のみならず様々な人々が社会で十分に力を発揮できて「生きたい人生＝幸せな人生」を送ることができるように、という願いを込めている。

女性が社会・経済の中で果たす役割という観点で、女性のライフキャリアについて見てみる。ライフキャリアは人生における役割・環境・出来事等により変化していく、その変化する中で自分の人生をどのように作っていくかが重要。また、そのライフキャリアは時代と共に変化している。例えば、女性のライフコース（平均的にどんな人生を歩むかをモデルケース化したもの）は、１９０５年生まれの場合、夫の死後に末子が結婚し、間もなく自分の寿命（63.5歳）を迎える。一方、１９６８年生まれの場合、末子の結婚後自分の寿命（83.9歳）まで約３０年間もある。

次に日本の現状が北欧諸国との比較で紹介された。世界各国の男女平等の度合いを示した2017年版「ジェンダー・ギャップ指数」（女性の地位を経済・教育・政治・健康の４分野でランキング化）によると、日本は144ヵ国中114位。特に政治（123位）・経済（114位）分野で低位。上位の多くは北欧諸国が占める。（１位アイスランド、２位ノルウェー、３位フィンランド、４位ルワンダ、５位スウェーデン）北欧諸国が上位を占める大きな理由の一つとして、「福祉が社会化されている（政策として社会が担う）こと」が挙げられる。これは「女性労働力の社会化」につながる。そして「国民の共助の意識化と政策への信頼の強さ」がある。政策例としてノルウェー発祥の「クォータ制」（政治システムにおける割り当て制度）が紹介された。これについては、準備できていない女性がその地位に就くことにより生じる現場の混乱、平等原理の侵害、逆差別、などの反対意見もある。

「クォータ制」に関連して日本の「２０２０３０」（2020年までに指導的地位に女性が占める割合を30%程度とする目標：第３次男女共同参画基本計画~H22年12月閣議決定）が紹介されたが、現状では目標達成は難しい状況。

最後に日本の今後の課題について。北欧諸国が進んでいるのは、長い歴史の中で地政学的に生き残る手段として築き上げた側面が強く、日本とは国のサイズの違いもある。また決して今の北欧諸国がパラダイスではなく、民族間の対立問題なども存在する。大事なのは先ずは我々一人ひとりが現状の壁を正面から受け止めることから始めること。そして北欧諸国を参考にしながら日本に合ったやり方を探していくこと。

映像から読み解けること～講演の中で紹介（一部上映）された映画の一例

〇「ストックホルムでワルツを」～１９６０年代のスウェーデン。離婚した女性が子育てをしながら、かつ古い考え方を持つ父との確執を抱えながら苦労してジャズシンガーとして成功していく物語。スウェーデンでも当時は保守的なジェンダー規範を持つ人々が多かったことが良くわかる。

〇「サーミの血」～現代のスウェーデン。サーミ人を例に今でも民族対立があることがわかる。（ジェンダーといテーマからははずれるという前置きあり）石黒氏からは、この民族対立は東京国際大学に留学中のスウェーデン人も知らなかった、というエピソードもあった。映画からこのような「自国の闇」を知り、かつ正面から受け止めることが大切。

（記録者感想～今回は時間の関係で、残念ながら演題後半の「欧米社会とジェンダー」については割愛されましたが、別の機会で是非お聴きしたいと思いました。また、今回の石黒氏のお話は、研究者としての背景に大学卒業後十数年間の会社勤務と６年間の英国留学という貴重な経験があることが良く分かりました。高校生・大学生（男女共）の皆さんにも是非聴いて頂きたい内容でした。）

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

※講演会後に会場近くの居酒屋で懇親会を開催。講演会参加者の何と約８割の皆さんが参加され、また石黒氏とその同期５名の皆さんを囲んで、いつもより若いエネルギーが溢れた大盛況の懇親会となりました。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（幹事　荻原貴、７９期）